



国宝 銀銅蛭巻太刀拵  
丹生都比売神社蔵 平安時代(12世紀)  
[資料番号48]

重要文化財 菩薩半跏像 極楽寺蔵  
飛鳥時代(7世紀) [資料番号1]

令和3年9月17日	
資料提供	
担当課	和歌山県立博物館 学芸課
担当者	学芸課長 前田正明
電話番号	073-436-8684 FAX 423-2467



## 和歌山県の名宝が勢揃い

### 和歌山県立博物館創立50周年記念特別展 「きのくにの名宝 ー和歌山県の国宝・重要文化財ー」の開催について

会 期:令和3年10月16日(土)~11月23日(火・祝)  
(展示日数34日)

県立博物館創立50周年という節目の年を迎え、県外の国立博物館に寄託されている国宝・重要文化財も里帰りして、和歌山県が誇る名宝を一堂に会する展覧会です。これまでの博物館の活動をふまえ、「きのくにの仏像と神像」「きのくに荘園の世界」「国宝・熊野速玉大社の古神宝類」「紀州東照宮の名宝」「芦雪・応挙 紀南寺院の障壁画」という5つの視点から、和歌山県の誇る数々の優品を紹介します。

展示資料 240点 (うち国宝48点、国宝(附)2点、重要文化財88点、重要文化財(附)4点、重要有形民俗文化財7点、和歌山県指定文化財57点、和歌山県指定文化財(附)1点、市町村指定文化財6点)

#### 【みどころ】

- 県外の国立博物館に寄託されている国宝・重要文化財も里帰り。  
 国宝 じんぶつ が ぞうきょう 人物画像鏡 隅田八幡神社蔵(東京国立博物館寄託) 当館で初公開  
 国宝 ぎんどうひるまきた ちごしらえ 銀銅蛭巻太刀拵 丹生都比売神社蔵(東京国立博物館寄託) 当館で18年ぶり
- 熊野速玉大社に伝えられた国宝の古神宝類と神像がずらり。  
 明徳元年(1390)に天皇・上皇・将軍・諸国の守護らによって奉納された約1000点の古神宝類のなかから選りすぐった40点と熊野速玉大神像(国宝)ほか7軀を展示。
- 創建400年を迎えた紀州東照宮に伝えられた家康・頼宣ゆかりの宝物もずらり。  
 歴代の紀伊藩主が奉納した宝物のなかから、家康の遺品として頼宣(初代藩主)に譲られた太刀・甲冑・装束、頼宣の初陣用に家康が作らせた装束などを中心に展示。
- 連続講座「名宝からみる、きのくにの歴史と文化」の開催。  
 館長と学芸員が担当した展示の内容をお話しします。  
 詳しくはチラシの裏面をご覧ください。

[添付資料] チラシ、主な出陳品、出陳資料目録、開催要項  
 画像データは、下記のアドレスにご連絡いただければ、送付いたします。  
 admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp(博物館メールアドレス)

## 主な出陳品

### I きのかにの仏像と神像



平安時代前期(9～10世紀)に制作された像高101.2cmに達する等身を超える神像。肩幅が広く胸板の厚い量感あふれる造形、背筋を伸ばした堂々とした姿勢は、表情と相まって雄偉な印象である。理想的な神の姿の造形化が成し遂げられる時期に制作されたもので、日本を代表する神像彫刻の傑作ともいわれる。

(国宝 くまのはやたまのおおかみざどう 熊野速玉大神坐像 くまのはやたまたいしゃ 熊野速玉大社蔵 [資料番号26])

### II きのかに荘園の世界



江戸時代後期(19世紀)、現在の橋本市で刀剣や土器とともに発見されたとも伝えられる。背面に人物や騎馬像が彫られた鑄銅製の画像鏡で、中国製の画像鏡を手本に、日本で作られたとされている。「癸未年」に制作されたことが記されている。「癸未年」については、西暦443年説と503年説とが有力である。[東京国立博物館寄託]

(国宝 じんぶつがぞうきょう 人物画像鏡 すだはちまんじんじゃ 隅田八幡神社蔵 [資料番号54])

### III 国宝・熊野速玉大社の古神宝類



明徳元年(1390)に奉納された古神宝類の一つで、上着と肌着の間に着る装束。文様を織り出した地に別の色糸で二重に文様を浮き上がらせる二重織という高度な技術が用いられている。熊野速玉大社の第一殿の社殿である結宮に祭られる夫須美大神(女性の神様)に奉納されたものと考えられている。

(国宝 あこめもえぎこあおいふせんりょうまるもんふたえおり 相萌黄小葵浮線綾丸文二重織 熊野速玉大社蔵 [資料番号92])

### IV 紀州東照宮の名宝



兜や胴、肩当はイタリア製、面頬や脇当、草摺、兜の鞆は日本製である。胴の中央に鎬を立てているのが特徴で、試し撃ちの跡がある。縦に長い兜には、人物や剣、甲冑などの模様が施され、腰まで覆う胴にはマンドリンや獅子、唐草文などが線刻されている。1570～80年ごろ北イタリアで制作されたとみられている。

(重要文化財 なんぼんどうぐそく 南蛮胴具足 徳川家康所用 紀州東照宮蔵 [資料番号120])

### V 芦雪・応挙 紀南寺院の障壁画



12面のうち右4面に滝の傍らで眠る2頭の獅子、中央4面に立ち上がり目を剥き毛を逆立てて怒気をあらわにする獅子(写真)、左4面にその獅子に駆け寄る二頭の獅子を描く。静と動の対比、斜線と垂直線を活かした幾何学的な構図が目を引く。紀南に残る芦雪の作品は制作年代が明らかな点で重要。本図は天明6～7年(1786～87)の制作。

(重要文化財 からじしず 唐獅子図 長沢芦雪筆 成就寺蔵 [資料番号148])